

# 全日本アド連たより



発行・編集

全日本青少年育成アドバイザー連合会

事務局：愛知県春日井市神屋町 2298-434 峠テル子宅  
(0568) 88-1050

地域を担う中核指導者の養成 〆切 1月31日

## アドバイザー養成講習会受講生募集中!

平成26年 2月14日～16日 : (財)愛知県青年会館

全日本青少年育成アドバイザー連合会主催、愛知県青少年育成アドバイザー連絡協議会主管で、平成25年度青少年育成アドバイザー養成講習会を名古屋市中区の(財)愛知県青年会館で開催します。現在受講生を募っています。定員は100名で、希望者は充分受講できますので、



昨年度養成講習会で相談助言の講義でカウンセリングを学ぶ

- ① 青少年の育成指導・教育・支援等、幅広く青少年に関する活動や仕事をしている人。
  - ② 青少年指導者としての基礎知識や今日の青少年を理解する手掛かりを学びたい人。
  - ③ 住んでいる地域をいきいきとさせる手掛かりや相談・助言について学びたい人など、歓迎し応募をお待ちしています。
- 既アドはフォローアップ研修として参加OK



昨年度養成講習会のグループワーク

を増やす活動として取組んで共に参加していただきしたいと思います。

この講習会は、(社)青少年育成国民会議が平成21年に解散し、青少年育成国民運動の地域の担い手である青少年育成アドバイザーの養成ができなくなり、当会が、内閣府や全国青少年育成県民会議連合会、愛知県、愛知県青少年育成県民会議などのご支援をいただきながら自ら養成しようとするものです。 (事務局)

### CONTENTS

アド養成講習会内容	・・・2
講師陣プロフィール	・・・3
会長協力呼びかけ	・・・4
オブザーバーとして	・4～5
各ブロック大会報告	・5～7
内閣府中央研修会	・・・7～8
日本善行会秋季表彰者	・・・8

# 充実した講師陣と経験豊富なアドバイザーによる

## 【平成25年度青少年育成アドバイザー養成講習会】

開講式 平成26年2月14日 13:00~13:20

### 研修内容と講師

日(曜)	プログラム	内 容	講 師
14 日 (金)	講義① 13:20-14:10	青少年育成国民運動の流れを理解し今後の方向を考えるポイント学びます。	(旧)青少年育成国民会議 副会長 上村 文三 氏
	講義② 14:20-15:50	青少年の発達過程の特徴と課題について学びます。	愛知教育大学教授 大村 恵 氏
	講義③ 16:00-17:00	参画型地域活動支援の方法と、青少年育成アドバイザーの役割について学びます。	群馬大学名誉教授 萩原 元昭 氏
	事例紹介④ 17:10-18:00	青少年育成アドバイザーの活動の実践で成功と失敗の体験を知り、そこから得た企画・行動のノウハウを学びます。	岩手県青少年育成アドバイザー連絡会長 平井ふみ子 氏
	意見交換会⑤ 18:30-20:30	講師の先生と質疑応答を交えて、より深く講義で学んだことを意見交換します。	グループ別で各講師と受講生
15 日 (土)	講義・演習⑥ 9:00-11:00	相談・助言(カウンセリング)の基本と応用について学びます。	日本福祉大学教授 渡邊 忍 氏
	講義⑦ 11:10-12:30	少子高齢化の社会で、地域の崩壊や連帯感が希薄化する中で、青少年育成活動をどうデザインするかについて学びます。	神奈川大学・東京学芸大学 講師 久田 邦明 氏
	公開講義⑧ 13:20-14:30	国の進める子ども・若者育成支援策について学びます。	内閣府政策担当官
	公開講義⑨ 14:40-16:30	進化するインターネット社会の現状と今後を知り、青少年育成者はどのように対応すればよいか具体策を学びます。	群馬大学名誉教授、NPO 青少年メディア研究協会 理事長 下田 博次 氏 講師 下田 真理子 氏
	意見交換会⑩ 16:40-18:00	講師の先生と質疑応答を交えて、より深く講義で学んだことを意見交換します。	グループ別で各講師と受講生
	交流会 18:30-20:30	夕食をしながら現アドバイザーと受講生でそれぞれの地域の話題を紹介し合い、交流と絆を深めます。	受講生及び各県青少年育成 アドバイザー
16 日 (日)	グループワーク ⑪ 9:00~11:00	今後、青少年育成アドバイザーとしてどんな心構えで、どんな活動ができるかグループに分かれて話し合います。	グループアドバイザー：各 県青少年育成アドバイザー 連絡会長
	全体会⑫ 11:10-12:00	グループで話し合ったことを発表し、講師の先生からアドバイスをいただき、明日からのアクションを明確にします。	コーディネーター：愛知県 青少年育成アドバイザー 相談役 小田 元一 氏 助言者 久田 邦明 氏

## 主な講師のプロフィール（敬称略）



**大村 恵**：愛知教育大学教育学部教育科学系学校教育講座・教授。名古屋大学教育学部卒。青年期教育、社会教育を研究分野とし、愛知県のユースワーカー養成講座、県青少年育成アドバイザー研修、豊田市・日進市の子ども条例策定などに関わり、現在豊田市子どもにやさしいまちづくり推進会議委員、同市子どもの権利擁護委員など務めている。

**萩原元昭**：群馬大学名誉教授。東京教育大学大学教育学部教育学科卒。日本環境福祉学会理事。東大・京大・阪大・広大・東京教育大学院講師、九州大学・東京家政大学大学院客員教授・青少年育成国民会議中央委員を歴任。日本保育学会常任編集員会委員長、日本教育社会学会理事、日本社会教育学会名誉会員。著書に「子どもの参画—青少年参画活動支援の方法」「多文化保育論」「やさしい教育学原論」「幼時教育の社会学」など。



**下田博次**：群馬大学名誉教授。2008年まで群馬大学社会情報学部大学院研究科教授となり、退職後特任教授、名誉教授。環境NPO「富士山クラブ」理事等NPO活動を自ら実践。警察庁「少年のインターネット利用に関する調査研究会」座長、市民主導のIT（情報技術）革命を唱え、妻真理子とともにホームページ「ねちずん村」を主宰、子ども達のインターネット・携帯電話利用問題に取り組んでいる。著書『学校裏サイト』（2008年、東洋経済新報社）『液晶画面に吸い込まれる子どもたち』（2013、女子パウロ会）

など。

**下田真理子**：2001年に夫（下田博次）と共に、子どものインターネット利用を考える「ねちずん村」を立ち上げ、保護者の立場で、子どもたちのインターネット利用問題に取り組んでいる。「市民インストラクター」の養成に取り組む。



**渡邊 忍**：日本福祉大学教授。日本福祉大学社会福祉学部卒、日本福祉大学大学院社会福祉研究科修了、名古屋市若葉寮児童指導員、名古屋市児童福祉センター相談課児童福祉司、心理判定員、非行専任児童福祉司など歴任。心理臨床修士。児童虐待、非行児童の援助、家庭支援の研究、学校臨床の研究、社会福祉専門実習のあり方について等を研究テーマとしている。社会活動としてNPO法人「子どもセンターパオ」理事など多数。

**久田邦明**：神奈川大学人間科学部講師。1950年、愛知県常滑市生まれ。静岡大学を卒業後、東大研究生、日本社会教育学会理事、社団法人神奈川県青少年協会理事、神奈川県青少年問題協議会委員などをへて、現在、神奈川大学、東京学芸大学の兼任講師とし社会教育主事講座や市町村行政の社会教育のあり方などの講義を担当。著書に「考える思想」「子どもと若者の居場所」「生涯学習論」などがある。



**上村文三**：元（社）青少年育成国民会議副会長。昭和41年青少年育成国民会議発足から事務局に入り事務局長、専務理事を経て平成9年から平成20年まで副会長。その間、青少年育成国民運動の中核的役割を果たした。平成元年から10年まで流通経済大学非常勤講師。現在全日本青少年育成アドバイザー連合会顧問、公益財団法人日本ユニセフ協会理事、財団法人日本善行会善行表彰委員会委員。

## 講習会の参加費

28,000 円（受講経費、食費、交流会費、宿泊費を含みます。宿泊は名古屋クラウンホテルです。宿泊を別にされる方は 18,000 円です）  
申込後に納入先等について別途ご案内いたします。

※ 募集要項や申込書はホームページ「全日本アド連」で検索してください。

【研修についてのお問い合わせ】

愛知県青少年育成アドバイザー連絡協議会事務局長 峠 テル子  
F A X (0568) 88-1056 携帯 090-1989-7410

# 受講生を募りアド養成講習会を成功させよう

全日本青少年育成アドバイザー連合会長 宇野 晃



私達青少年育成アドバイザーの生みの親の（社）青少年育成国民会議が解散し4年経過しました。このままでは、アドバイザーの皆様は高齢化し、青少年との接

点がなくなり、また、気力が薄れて青少年育成活動から離れるばかりとなります。

アドバイザーの役割は①地域の「隣のおじさんおばさん」としての地道な取り組み、②青少年育成組織にかかわり、活性化プログラム企画への支援、③課題解決のための地域連携推進、④青少年育成都道府県民会議を始め市町村民会議を支援し運営基盤づくりに力をそそぐこと等であります。

少子高齢化、価値観の多様化、経済のグローバル化、高度情報通信化の流れの中で、自分達の今までの活動を見失いがちになりますが、「地域の子どもは地域で育てる」という考えは青少年育成の基本であります。

地域にはさまざまな問題や課題があり新たな連携や連帯、青少年を巻き込んだ活動や心の居場所づくりなど、育成環境の再構築の必要性が強く叫ばれてきています。そしてその中核として仕掛け、調整し、まとめ、推進していく人材も必要とされています。その役割を私たち青少年育成アドバイザーに求めたいと思います。

このアドバイザーを末永く継続させるには後継者養成し、新しい仲間を組織に入れ

て活性化を図っていくことがどうしても必要になります。

今回の講習会プログラムは旧（社）青少年育成国民会議が養成したものと、ポリュウムの的には弱い面がありますが、ネットへの対応、青少年育の地域づくり、青少年理解と相談など、青少年育成に造詣の深い専門家の先生を多数お願いしました。また、昨年度の反省を基に、講師の先生との交流や青少年育成アドバイザーとしての活動方向を明確にするプログラムも取り入れました。

11月中旬に岐阜県庁で行われた全国青少年育成県民会議連合会理事会では、青少年育成アドバイザー養成に期待する声が高く、参加への予算措置をしていただける県民会議もでてきました。その動きを歓迎する同時にその、期待に応えなければと思っています。

そのためには組織をあげて盛り上げていくことが重要で、全国の青少年育成アドバイザーの皆様のご協力なくしては成功しません。

まだ、定員にかなり余裕があり、各方面にチラシを配布し、受講生を募っていただきたいと思います。また、この機会に既青少年育成アドバイザーの皆様も受講生に指導していただく立場で参加していただき、受講生とともに新しい活動の具体策を考える機会になればと思っています。

青少年育成アドバイザーの皆様のご協力をよろしく願いいたします。

## 全国県民会議連合会理事会にオブザーバー参加しました

全国青少年育成県民会議連合会の理事会が、11月26日の総会開催に先立ち11月15日岐阜県庁で開催されました。要請により全日本アド連会長とし宇野晃がオブザーバー参加いたしました。

当日は八村輝夫会長、松原登理事など7名が出席された。当日内閣府の加藤弘樹青少年企画・

青少年支援担当参事官も出席されました。加藤参事官は「青少年育成関係者との連携、都道府県民会議の連携を強調され、多くの県会議が参加できるよう努力する」と挨拶されました。私は全国青少年育成アドバイザーの沿革や現状、問題点、アド養成講習会の協力など説明しました。



連合会役員や参事官の前でアド連を説明しました

また、今後の連合会との連携では、①アド養成講習会の共催、②アドの活用、③ゆるキャラづくり等提案いたしました。八村会長さんは「アドバイザー養成講習会を支援していきたい」と発言され意を強く持ちました。

連合会加入県が、まだ19県と少なく全日本アド連とし組織を通じて未加入県に働きかけ、多くの県が加入するよう努力をしなければと思いました。

今後連携をとり次代の日本を担う青少年の健全育成のための活動の推進と後継者育成を図っていききたいと思いました。

なお、全国青少年育成県民会議連合会加入県は次のとおりです。

北海道、秋田（理事）、宮城、群馬、茨城、栃木、山梨（理事）、長野、福井、岐阜（副会長）、三重、滋賀、京都、和歌山（理事）、鳥取（会長、事務局長）、高知、福岡、鹿児島、沖縄（理事）

## 中国・四国ブロックアド研究集会香川大会

8月31日・9月1日 オークラホテル丸亀

中国・四国のみではなく、北海道や福岡県、鹿児島県のアドバイザーの仲間50名が参加しました。開会式に浜田恵造青少年育成香川県民会議会長（香川県知事）の来賓祝辞があり、講義内容も時代に沿ったもので、夜の交流会では楽しいアトラクションがあり、充実した大会となりました。

研究テーマは「子どもと共に育ちあう～一人、ひとりができることから～」で、はじめに香川県青少年行政の取組について県担当者の話があり、「香川大学と連携した地域コネクター（74名）の養成と課題解決のためのネットワーク形成の推進。県民運動推進委員より175校区（小学校）活動の支援などの取組を行っている」とのこと。

講義は香川大学教育学部の竹森元彦教授のコーディネートで行われ、現場を預かる各講師が情報を提供した。（1）「引きこもりの現状と課題」では、引きこもりを隠さない。ニーズにあった支援をしていくことが大切。

（2）虐待支援における「児童養護施設の現状と課題」では子どもの問題として発達障害や学習の遅れがあり、親の問題では親が変わらなければ子どもも変わらない（規則正しい生活や社会的な常識が必要）。慢性的な職員不足の解消が大事。（3）「人と人をつなぐ場の環境デザイン～若者の未来をつくる地域の中の居場所～」では、地域の居場所としては①誰も否定されない場、②1人でいても

一人でないと感じる場、③対話重視の場、④いつも立ち寄られる場、⑤「ただいま」と帰ってこられる場等が若者（学生）に必要な。今の大学生は創造力、コミュニケーション、行動力が足りなく、この面で支援することが大切と指摘された。

講義のあとは3分科会に分かれて意見交換を行い、翌日の朝にまとめを発表しました。

夜の交流会では、知らない参加者との紹介や「かがわ源平紅白キャラバン隊」の演舞とにぎやかで楽しい時間となりました。



かがわ源平紅白キャラバン隊は交流会を盛り上げました

2日目は各分科会討議内容を発表し「青少年育成支援ネットワークの必要性」を竹森教授は強調され結ばれた。

その後、香川県アド協副会長の方の「挨拶

の本質と効用」について講演があり、「挨拶によって健康状態が分かることもあり、真剣にやらないと意味がない」など参考になる話でした。中国・四国ブロック大会は今回で 19

回目ですが伝統あるブロック大会だと感じました。

(全日本アド連会長宇野晃)

## 東海・北陸ブロックアド連愛知大会 子どもの自立する心を信じよう

9月22・23日 愛知県青年会館&名古屋クラウンホテル

この大会は総会と研究集会を兼ね今年度で8回目となります。今回は愛知県が担当となりました。富山県6名、石川県1名、岐阜県10名、愛知県18名計35名の仲間が参加し、



熱心に話し合い、交流した東海北陸ブロックのアドバイザーの皆さん

会議は愛知県青年会館、交流会と宿泊を名古屋クラウンホテルで行いました。

総会は9月22日で24年度事業・会計報告の承認、25・26年度役員を選出、25年度事業・予算計画の承認を行いました。会長

に宇野晃、事務局長峠テル子(ともに留任)と、次回を岐阜県で開催することを決めました。

総会后に研究集会を行い、研究テーマは「アドバイザー活動と地域連携のありかた～あなたの可能性を地域で活かそう～」としました。

はじめに、アドバイザー養成講習会講師で群馬大学名誉教授の萩原元昭先生の基調講演を聴き、その後、3つのグループに分かれて「子育て、食育」、「いじめ、ひきこもり、キャリア形成」、「団体育成、地域活動事業関係」について、参加者の報告や意見を基に研究しました。まとめの段階で、萩原先生にアドバイスをいただきました。

閉会式に大会宣言を次のとおりおこないました。

私たちは、青少年育成アドバイザー活動の進化を目指して名古屋に集まり、地域でできる青少年育成アドバイザーの可能性を求めて、さまざまな、子ども・若者の育成課題について討議しました。そこで得た取組は、次の観点からできることから実践していくことです。

- 1、1人ひとりの青少年を見守ろう
  - 2、生命(いのち)の大切さを伝えよう
  - 3、1人で悩まず仲間と相談しよう
  - 4、私達が子どもの自立する心を信じよう
  - 5、1人ひとりの自尊感情を育てる集団間の連携を強めよう
- 以上、第8回東海北陸ブロック愛知大会で宣言する。(事務局)



要点を萩原講師と話し合いまとめました

## 近畿ブロックアド会研究集会 / N神戸

11月24日(日) 神戸市勤労会館

平成25年度近畿ブロック青少年育成ア

ドバイザー研究集会が兵庫県青少年育成ア

ドバイザー協議会主催、全日本アド連後援で行われました。当日は滋賀県、京都府、和歌山県、地元兵庫県から 18 名の方々参加し「今の私、これからの私（現在～将来）」について意見交流を行いました。

吉田（京都）さん「前向きの子を対象にしている。夏は 1 ヶ月キャンプ場に行っている」、前（和歌山）さん「県民会議から 5 万円の補助事業を行っている」、中村（滋賀県）さん「会員は 21 名いる。アドとしての活動の場がない」、横田（滋賀）さん「認定されたがアドバイザーとしての仕事がない、組織を辞めてしまうと情報源がなくなってしまう」、荒井（兵庫）さん「NPOを廃止した。防災腹話術の分野で仲間を増やしたい」、鳥山（兵庫）さん「やっと青少年育成アドバイザーとなった。親の教育相談をしている。積極的に声を掛けています」など、さまざまな報告がありました。

アドバイザーは団体や機関から退いたときはやることがないという意見がありましたが、隣のおじさんおばさんとしての「挨拶

や声掛」も重要な活動で誇りをもって活動すべきとの声もありました。

昼食は近くのホテルレストランで時間をとり交流をはかりました。午後からは同会場で第 17 回中年メッセージ大会があり、小生の「インターネット時代を憂う」とした発表を含め 12 名(青少年育成アドバイザー 4 名)の方が 1 人 10 分ほどで人生の思いや趣味のこと、世相から訴えたいこと、夢など語りました。参加者全員が審査し得票の多い人が



参加者一人ひとり今の活動や今後を発表しました

ら賞品贈呈を受けました。

中年のメッセージは自分の日頃の活動や思いを語る場であり、また、話術を磨く場であり参考になる取組と思いました。

（全日本アド連会長宇野晃）

## 平成 25 年度子ども・若者育成支援のための 地域連携推進事業中央研修会報告

平成 25 年度子ども・若者育成支援のための地域連携推進事業の中央研修会が 11 月 25 日・26 日に亘って国立オリンピック記念青少年総合センターで行われました。今回は

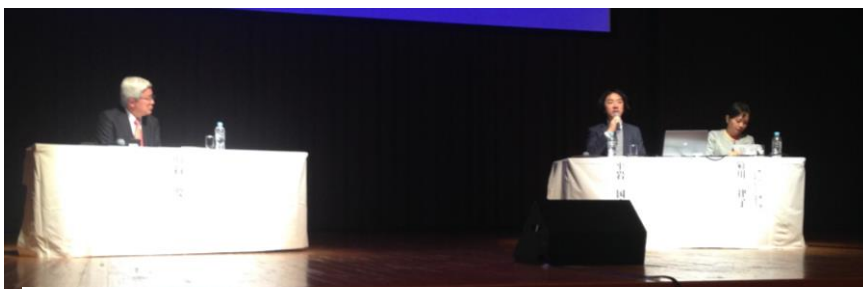
基調講演で千葉大学名誉教授、文部科学省中央教育審議会委員の明石要一氏のお話がありました。

明石氏は、社会の中の青少年を理解すること。

体験が人生の成功を決めるとし、体験格差是正の施策は、成長スタイルにあった体験をすすめる。例として①交換ホームステイ(年長さん、小学生低学年)②秘密基地づくり(小学3、4年生)③通学合宿(小学校高学年)④短期の全寮制(月～金)は中学生、⑤一週間のインターシップは高校生がよい。地域・施設活性化のビジネス

モデルとして地域商店街の活性化、駄菓子屋のビジネス、福祉コンビニ構想、中学生と独居老人宅配など紹介された。最後に、①家風(家紋、家訓、家自慢)②校風(校訓、校章、校歌の意味を伝える)③地域色(地域の四季を集める、町自慢)の二つの風と一つの色をつくろうと結ばれた。

その後パネルディスカッションが行われ、放課後 NPO アフタースクール代表理事の平



パネルディスカッションで新しい取組が紹介された

あらかじめ公表の了解をとった方々の名前と所属団体、役職の名簿が渡され参加者状況がよく分かり、402 名中 24 名のアドバイザーの皆様が県から推薦され参加していました。

第 1 日の冒頭に社会貢献青少年表彰式があり 11 の団体や個人 2 名が内閣府副大臣岡田弘氏から大臣表彰を受けました。

その後、シンポジウム『青少年が生き生きと、幸せに生きる力を育む～放課後の居場所・体験活動の場づくりを通じて～』があり

岩国泰氏の子どもたちの放課後の対策としてアフタースクールを開いているという活動を紹介された。

その、コンセプトは、「社会で子どもを育てる」で、放課後の勝利の方程式は、市民（隣の子も面倒を見る）×学校（地域のコミュニティ拠点）×NPO（共感による巻き込み力）で、市民は市民先生として協力を願う。学校と協力して開催し、月曜日から土曜日まで、スポーツとしてサッカー、テニス、剣道等。学習としてそろばん、英語、書道等。芸術・音楽ではピアノ、フルート、バイオリン等を開催しているとのことでした。

放課後は児童クラブとかトワイラルスクールとして各市町が開催（小1年から3年生対象）するケースが多いが、この場合NPO法人（2011年に法人化）が開催しているところに特色があり運営に注目が集まりました。予算は協賛企業からの助成や参加の実費等で

賄ってスタッフの給料も出せるとのことでした。

2日目の専門研修会では、午前中は『安心・安全なコミュニティづくり～割れ窓理論による少年非行の防止～』で拓殖大学政経学部教授の守山正氏で軽微な犯罪を放置しない非行少年を出さない地域づくりをしてほしい。午後は『犯罪・非行の若者の現状と支援～心理臨床（児童虐待と非行）の視点から～』で日本福祉大学教授山田麻紗子氏の講演で、虐待についての基本事項や虐待が子どもの成長・発達におよぼす影響、虐待と非行との関係等参考になるお話がありました。その他、『現代日本社会における子どもから大人への移行～子ども・若者の発達支援～』『いじめを社会学で考える』の専門研修会もありました。

（全日本アド連会長 宇野晃）

## 日本善行会表彰式でアド5名受賞

昨年度に続き今年度も全国で5名を秋季表彰推薦し、表彰をいただくことができました。

表彰式は11月16日（土）東京の明治神宮参集殿で行われ、全日本アド連から宇野晃（愛知県）と佐藤節子（神奈川県）、小野キヨ子（東京都）の3名が出席し善行会長の藤田耕三さまより表彰状と善行章を受けました。その他の方々は次のとおり。松原登（岐阜県）、宮良祐成（沖縄県）

社団法人日本善行会は善行の表彰並びに善行精神の普及と善行の実践を通じて明るい住みよい社会環境づくりに務め、もって国の発展と国際親善に寄与することを目的としています。事業として①善行表彰：春5月と秋11月②善行精神の普及：機関紙の発行③善行実践活動（各支部、環境美化、善行芸能等）を行っています。（事務局）



左から小野さん、佐藤さん、宇野さん

### 行事予定

- 1、全日本アド連主催青少年育成アドバイザー養成講習会  
H26年2月14・15・16日 愛知県青年会館及び名古屋クラウンホテル
- 2、第18回全日本アド連総会・研究集会  
H26年6月21・22日 愛媛県松山市道後温泉「古湧園」

### 【編集後記】

内閣府主催の「青少年のインターネット利用環境づくりフォーラム」が岐阜県大垣市で11月にあり、話題のLINE株式会社政策担当者の講演がありました。「18歳未満利用者のID利用制限」「グループから退会させた者の表示」など安全対策を打っているという。LINEは友人とのつながりを充実するためのクローズドコミュニケーションツールであり、無料の通話とメールが魅力ですが、使い方を誤るといじめや犯罪、出会い系に利用されたりします。

ゲーム機やケータイ、スマホなどネットに繋がる機器を親が子どもに買い与える場合は、利用目的よく話し合い、決めたら家庭ルールづくり、フィルタリングを掛ける、日頃から利用状況を見守る。また、親子の日頃の対話を重視し、危険を察知し指導することが大切と感じました。

2013年も残り僅かと成りました。全日本アド連の当面の重点は、後継者の養成のためのアド養成講習会の成功です。アクションにはエネルギーが要りますが、行動が変化を呼び、前進となるのです。多くの受講生を迎えてアド養成講習会を成功させなければなりません。残りの2013年を悔いのないようにし、輝かしい新年を迎えたいものです。（事務局編集担当）